



なは

2023年(令和5年)
第869号 毎月1日発行

6月

広報

市民の友

発行：那覇市 〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号 ☎(代表)867-0111 印刷：丸正印刷株式会社 配布：那覇市シルバー人材センター

めざせ!
ちゅら那覇!

家庭ごみ排出量
前年同月比 **-0.08kg**
4月/1世帯あたり
1日0.86kg

那覇市ごみ分別・減量キャラクター ナハソウくん

慰霊の日

特集

取材／秘書広報課 ☎862・9942

78年前にあったこと

アジア・太平洋戦争のさなかの昭和19年、沖縄に日本軍の航空基地が配備されました。米軍による空襲が激しくなるなか、翌年4月には、米軍が読谷海岸より上陸、南北に進軍します。約3か月にわたり繰り広げられた沖縄戦。空からの攻撃に加え、陸からは銃や大砲、火炎放射器が容赦なく街を焼き、海からは艦砲射撃が撃ち込まれました。

首里に置かれた日本軍司令部は、米軍の猛攻を受け5月には摩文仁方面へ撤退を開始しますが、南部一帯には住民が多く避難していたため、この地に軍隊と住民が混在することに。激しい地上戦のなか、武器を持たない多くの民間人が犠牲になりました。

牛島満司令官は6月23日に自決、その日に沖縄戦の組織的戦闘は終わつたとされていますが、住民の被害は各地で続きました。沖縄戦では、軍人よりも多くの住民が命を落とし、県民の4人に1人が死亡したと言われています。

私たちにできること

戦後78年が経ち、長く保たれてきた平和の中で戦争を強く意識することは少なくなってきたかもしれません。しかし、78年前の出来事は現在の沖縄の姿にも大きく影響しています。

今を生きる私たちにできることは何かを考えました。

平和への思い新たに

はいさい。

昨年から続くロシアによるウクライナ侵攻に加え、アフリカのスーダンでも内戦が激化するなど、世界各地で戦争や紛争が絶えません。これらの争いが一刻も早く終結することを心より願います。

ここ沖縄の地でも78年前に住民を巻き込んだ激しい地上戦が繰り広げられ、年齢、性別、国籍を問わず多くの尊い命が奪われました。

来る6月23日の「慰霊の日」は、先の大戦で犠牲となった方々の御霊を慰めるとともに、恒久平和の思いを世界中へ訴えていく日となります。

本市でも、平和の尊さを継承し平和行政に努めていく中で、市民の皆様におかれましては、今月号の特集を通して、改めて平和について考える機会になれば幸いです。

那覇市長 知念 覚

Catalog Pocket カタポケ iPhone / Android 無料 Free App

「広報なは市民の友」を10言語で読むことができます。

FOREIGN RESIDENTS PORTAL

#なはとび あなたが見つけた「なは」募集中!

いいね! いいね! いいね!

那覇市の人口と世帯	総人口 315,421人(5,788人)
※()内はうち外国人	男 152,678人(3,012人) 女 162,743人(2,776人)
2023(令和5)年4月末現在	世帯数 158,455世帯(3,927世帯)
	住民基本台帳人口の内訳(外国人)

市が実施する事業やイベント、防災情報などの情報を発信しています。右記QRコードからそれぞれご覧いただけます。

Facebook LINE Instagram Twitter マチイロ

識者インタビュー

琉球・沖縄史教育、平和教育を専門とする新城俊昭・沖縄大学客員教授に、沖縄戦を知ることの意味と私たちにできることについて話を聞きました。

沖縄大学客員教授 **新城 俊昭さん**

あらしろ・としあき●1950年生まれ。著作に「琉球・沖縄史」「2045年のあなたへ」など。現在沖縄大学の客員教授として「琉球・沖縄史教育」「平和教育」の研究及び講演活動を行っている。



未来に対する責任

戦後生まれの私たちは、平和とともに先行世代の負の社会遺産を相続しています。先の大戦がどういった戦争だったのか、客観的に見つけ評価するという未来に対する責任を担っているのです。

過去に目を閉じる者は現在にも盲目である

ドイツのヴァイツゼッカー大統領の「過去に目を閉じる者は、現在に対しても盲目である」という言葉があります。

平和への努力

戦争体験の聞き取り中、戦争が起こったかどうかすれば命を守るのか聞いた私に、ある方は言いました。「戦争を起こさないこと以外に命が守られる方法はない」と。ひとたび戦争が始されると、命は守れない。だから戦争を起こさないための努力をしなければならぬのだと。

平和には努力が付きものです。日常生活の中で人権意識を持って、自分も社会の一員として平和の土台を作っていく。その積み重ねが社会を形成していく。



廃墟となった那覇にたつ米兵(那覇市歴史博物館 提供)

ます。興味があるとか好き嫌いではなく、私たちはできることをやらなければならないのです。

**

平和と戦争を両極とし、現実はその濃淡の中を変化します。いま、コロナ禍により社会や経済が不安定になり、以前より世の中の空気が戦争側に寄っているように感じられます。自分や他人の命を粗末に扱ったり、他国を軽んじたりすることなどもそれにあたるでしょう。相手を理解しようとする態度が私たちに求められています。

**

戦後50年を過ぎたころから、戦争の実相を伝えなければいけないという使命感に駆り立てられ、証言が増えてきました。語るのにそれだけの時間を要したのだと思います。これからの十数年が肝心です。戦争証言を直接聞くことのできる、最後の十数年です。渡嘉敷島で、家族を手に掛けた男性(当時16歳)は、「自らの手で愛する者の命を断つ事は、狂った形においてではあるが、唯一残された愛情の表現だったのです」と、証言しています。私たちはどういった戦争だったのかを知り、評価し、後世に確実に伝えていかないとはいけません。

**

体験した人の思いは分かっているようで、わかっていない。わかるはずもない。戦争を体験するという事はそういうことです。本当の辛さ、恐ろしさ、魂に受ける衝撃を私たちはわかっていないのです。それでも、知ろうと努力し、後世に伝え、平和の土台を作っていく責務が私たちにあります。

特集

慰霊の日



廃墟に残った天妃小学校と那覇尋常小学校(那覇市歴史博物館 提供)

私の家族、叔父の家族合わせて10名のうち8名の命を奪った戦争。戦争のことは思い出したくない、忘れたいたい。50年黙して語らなかつた。しかし、平成7年に沖縄県平和祈念資料館移転事業推進検討委員会の委員となり戦争のことは語り継がなければならぬことに気付いた。「少女十歳の戦場」を著す。この冊子が独り歩きし、全く知らない人からの手紙やハガキを貰い、果ては沖縄戦で従軍し生き残ったという北海道の南義雄氏とは96歳で亡くなるまで10年以上

証言者の思い

10歳の時に沖縄戦を経験された玉木利枝子さんが手記を寄せました。



自身の戦争体験をまとめた冊子

沖縄県観光ボランティアガイド **玉木 利枝子さん**

たまき・りえこ(旧姓:酒井)●1934年生まれ。天妃国民学校1年生時に大東亜戦争が勃発、4年生時に10・10空襲に遭遇。医師である父が軍医として出征したため、家族は死なば諸共と軍を追い父を探し南部の激戦に巻き込まれる。

の文通が続いた。

**

現在所属するボランティアガイド団体にも証言を断り続けたが、知らなければ何も始まらない。知らせることの大切さ、過去に学ばなければならぬことを深く知り体験者としての責任を感じるようになって現在に至る。

**

主に県外から来る中・高校生の平和学習の時間に語り継いでいるが、本当は戦場になった沖縄の負の遺産の真実を沖縄県民の我々自身がより深く知るべきであると私は思っている。

今の日常が当たり前だと思っではない。学べる、遊べる、家族の団らんが一瞬のうちに吹き飛ばされるのが戦場だ！

砲弾が飛び交う中で10歳の子供が、「死ぬのは仕方ない、苦しまずに痛い思いをせずに一瞬に死なせてくれ」と神に祈った。こんな世の中があつていいだろうか？沖縄県民である私達こそが戦争のことをもっと知るべきだ。

**

始まってしまえば戦争はなかなか止められない。軍拡の競争は果てしない。外交力がいかに大切か、いかに話し合える国々でなければならぬか。一番大切な人間の命が失われる、それが戦争だという事を忘れてはならない。

戦没した家族

開業医の父：軍医となり戦死
四歳上の兄：東風平の地上戦で被弾死
祖父：真壁にて被弾後家族の足手まといになると自決
祖母：喜屋武にて爆風による即死
母方の祖母：首里にて衰弱死
叔父：歩兵隊戦死
叔父の子：七歳男児は米軍のトラック上で死去。五歳女児は米軍の野戦病院で死去

市では沖縄戦体験者証言記録映像を制作しています。



マンガ

『キジムナー Kids 上・下』

上原 正三／原作 横山 旬／漫画

上原正三さんの自伝的小説を漫画化した作品です。創作物ですが、内容のほとんどが上原さんの体験が見聞さしたものだそうです。戦争が終わり、本土復帰もした沖縄で生まれた私にとって、衝撃的な場面も多くありましたが、確かにあった沖縄の日常だということが感じられました。若者の皆さまにぜひ読んでいただきたい一冊です。

石嶺図書館 瀬良垣 杏さん

DVD

『NHKスペシャル沖縄戦全記録—Battle of Okinawa—』

沖縄戦の記録を、ビッグデータ分析の手法で可視化し全貌を明らかにした作品です。膨大な資料や証言データをもとに再構築された沖縄戦を「映像と音声」で目撃すると、沖縄戦の悲惨さが強く伝わってきます。これまでも、沖縄戦について学んできましたが、より一層繰り返しはいけない歴史として、深く心に刻まれます。

石嶺図書館 比嘉 彩乃さん

本

『戦争は女の顔をしていない』

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ／著

第二次世界大戦でロシア兵として従軍した女性たちのインタビュー集です。通常の生活をするようになって、ずっと続く戦争の描写に胸が痛みます。本文より印象的な言葉を引用します。「忘れられるものなら忘れてしまいたい せめて一日でいいから戦争のない日を過ごしたい 戦争のことを思い出さない日を」

小禄南図書館 玉城 絵里さん

新聞

『沖縄戦新聞』

琉球新報社

沖縄戦当時の状況を、現在判明している事実や証言などをもとに再構成した新聞です。当時の新聞はどう伝えたかもわかる紙面になっています。新聞だからこそ読みやすさ、伝わりやすさがあり、リアリティがあること、類書がないことから時期に関係なく年間を通して動く作品です。沖縄戦を知る初めの1つとしてお勧めです。

ジュンク堂書店那覇店 森本 浩平さん

知戦るを

沖縄戦や第二次世界大戦を扱った作品を紹介します。

えほん

『なきむしせいとく』

たじまゆきひこ／作・絵

父を兵隊にとられ、兄も入隊した国民学校2年生のせいとくが、米軍の上陸を機に母と妹と共に南下し逃げていく物語です。淡々と進む描写は、最後に現在の問題へとつながります。布を染めて描かれる絵は力強くもやわらかく、読み聞かせにも適しています。作者は、沖縄に通い続け沖縄戦を題材にした絵本も多く出版されています。

小禄南図書館 児童書担当 喜屋武 愛さん

本 映画

『証言 沖縄スパイ戦史』

三上 智恵／著 集英社新書

北部の山中では、少年たちで結成された護郷隊がゲリラ戦に挑んでいました。少年兵の生き残り20名以上の証言から浮かびだす戦争の実相は、目を覆いたくなるむごさです。あまり語られてこなかったスパイ戦や、住民虐殺の指示などの戦争加害についての記録で、2018年には同名の映画も公開されました。

ジュンク堂書店那覇店 宮里 正範さん

写真集

『沖縄戦の戦争遺品』

豊里 友行／著 新日本出版社

那覇市在住の国吉勇さんが収集した沖縄戦の戦争遺品の写真集です。火炎放射で焼かれたカマボコの缶詰や石とともに融けた飯ごうなどに、当時の生活を垣間見ることができます。長年遺骨収集をされてきた国吉さんは、遺族に返せず個人的に預かっている遺品を自宅で展示し、訪れる人に戦争を伝えています。

映画

『生きる 島田穀一戦中最後の沖縄県知事』

佐古 忠彦／監督

(C)2021 映画『生きる 島田穀一』製作委員会

戦下の沖縄県知事として、何としても県民を守らねばならないと尽力した島田穀一(あきら)さんの姿を描いた作品です。島田は台湾からコメを確保し、住民疎開を進め、軍に南部撤退を思いとどまるよう進言していました。自決や玉碎が是とされた時代に「生きる」と言い続けた島田。リーダーとは、行政官とは、を考えさせられます。

My Efforts

沖縄大学4年生 本村 杏珠さん

私の取り組み

沖縄戦について、インスタグラムで発信するほか、修学旅行生の受入れやガイドの活動をしています。沖縄戦を知ることは、私たちの日常や現在の基地問題にも関わってきます。沖縄戦以前のこと、戦時中のこと、戦後のことを様々な角度から学んでいかなければいけないと考えています。選挙に行く際に沖縄戦や基地のことを理解していただきたいからです。

沖縄戦の学習は高校生で止まっている人が多いかもしれません。小学生が平和学習で戦争証言を聞き、沖縄戦のことを学んでも、ちゃんと話を聞きそれを覚えておくのは難しいです。

「私たちの世代も、今からでも遅くないし、沖縄戦のことを知ろうよ!」と思います。思い立ったら、そこがスタートです。平和祈念資料館に足を運ぶことでもいいし、作品を手にとってみる事でもいいと思います。沖縄戦のことを知りたくて、講演会や戦跡巡り、新崎海岸近くの山中で遺骨の収集に参加しました。現場に足を運ぶと、そのたびにわからないことにもぶつかり、調べても全然答えが見つからない。沖縄戦って終わっていないんだなあと感じます。それでも、行動に移さないと何も変わらない。どうしたらいいという正解はありませんが、自分なりに活動が続けたいと考えています。私の発信が誰かの沖縄戦を知るきっかけになればと思っています。

お知らせ

首里公民館にて「平和朗読会〜命どう宝〜」を行います

対 那覇市在住・在勤・在学の方

内 戦争体験者の朗読。高齢化により戦争体験者の声を聴く機会が少なくなったことから、慰霊の日特別企画として、平和への思いと命の尊さを、平和朗読・首里の皆さんが、戦争体験者のお話を語り継いでいく

日 6月17日(土) 14時～16時

問 首里公民館 ☎917-3445

那覇市役所1Fにてパネル展を開催します

原爆と戦争展

日 6月12日(月)～6月18日(日)

※沖縄原爆展を成功させる会との共催

平和を考えるパネル展

日 6月19日(月)～6月30日(金)

ほしぞら公民館にて市民講座を開講します

10歳の少女は、戦争(つしま丸遭難)からどう生き抜いたのか～平和のために今できること～

対 那覇市在住、在勤、在学(小学校3年以下は保護者同伴)

対 1部: 対馬丸遭難生存者のお話(平良 啓子さん)

2部: 平和朗読・合唱

日 6月18日(日) 14時～15時30分 ホール

申 6月5日(月)～申込受付

詳 公民館備付チラシ・HP

問 牧志駅前ほしぞら公民館 ☎917-3443

まーいまーいNahaにておはなし会を開催します

【読み手】読み聞かせボランティア すみれの会のみなさん

対 幼児・児童及び保護者

内 慰霊の日に関連した絵本のおはなし会

日 6月17日(土) 10時30分～11時(入場開始 10時～)

2階ホール

申 申込不要

問 人材育成支援センター まーいまーいNaha ☎917-3314